

(様式第2号)

福祉サービス第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

有限会社アウルメディカルサービス

②施設・事業所情報

名称：社会福祉法人ちとせ交友会 古都こども園	種別：幼保連携型こども園
代表者氏名：理事長 山口哲史 園長 岸上美和	定員（利用人数）： 100（103）名
所在地：岡山県岡山市東区古都宿453-5	
TEL：086-208-6001	ホームページ：http://www.chitosek.or.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 令和3年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人ちとせ交友会	
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員： 15名
専門職員	施設長・副園長 2名 保育士 24名
	管理栄養士 4名
	(医師：嘱託) 2名、(薬剤師) 1名
施設・設備の概要	乳児室1、ほふく室1、保育室4、一時預かり室1、遊戯室1、給食室1、事務所1、調乳室、トイレ

③理念・基本方針

理念：Home ここに集い ここで育み そしてここからはばたく
ちとせ交友会はかかわるすべての人にとって心安らぐ場所 Homeでありたい
保育方針：ゆきとどいた安全な環境と家庭的なぬくもりの中で、ひとりひとりの子どもの発達に応じた保育をし、自律的な子どもを育てる
目指す子どもの姿：生き生きとし、元気に遊べる子（情意的自律性）
友達としっかり関わり、育ち合う子（社会・道徳的自律性）
自分で考え行動する子（知的自律性）

④施設・事業所の特徴的な取組

・保育方針、目指す子どもの姿を踏まえ、「ピアジェの構成論」をもとに、保育のカリキュラムを作成し、実践している。
・季節を感じながら遊びが楽しめるように、春はお散歩に出かけて、鶯の声や春の草花、れんげつみを楽しんだり、夏は小さな年齢でも水遊びが楽しめるように2階のちびっこ広場にて水遊びや、大きな年齢は大型プールにてダイナミックに楽しんだり、秋は草花を使ってのままごとや、ぶどう園の保護者からいただいたぶどうでおままごとを楽しんだり、冬は氷や霜に触れたり、室内では、古都ならではの「古都かるた」を楽しんでいる。
・古都幼稚園から受け継いだ、地域や小学校との交流を深め、地域の方の優しさにふれたり、小学校入学への期待を高めている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 7 年 11 月 19 日 (契約日) ~ 令和 8 年 2 月 20 日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	1 回 (令和 年度)

⑥総評

◇特に評価が高い点

ピアジェの構成論を取り入れており、主体的に園児自らが学べる体制づくりに努めている。園庭から新幹線が見え、ドクターイエローやキティちゃんの新幹線が通ると喜んでいる園児のエピソードにほっこりした。隣接する小学校との連携が取れており、小学5年生と5歳児の交流がある。職員間では、報連相の体制づくりができており、何かあれば顔を合わせて相談できる環境となっている。保護者に対しても相談や話やすい環境を作っており、事務所内も明るい雰囲気であり、入りやすくしている。相談事があった際には、まずは話を聞くようにしており、否定することはしない点も評価が高い。

◇改善が求められる点

今でも十分にできていますが、研修を受けた後にフィードバックをして、知識の定着化を図り、更なる高みを目指してほしい。PDCAサイクルのC(Check)はできているが、A(action)に特に力を入れて、再度見直しを図り、保育の質の向上を目指してほしい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園して初めての第三者評価を受審させていただきました。
保育内容や運営について 改めて 現状を一つひとつ細かく、振り返ることができ、課題を抽出する機会となりました。評価の結果より、中長期的な見通しをもち、プロセスを大切にしながら、全ての子ども達の幸せのために 教育・保育を展開していきたいと思えます。引き続き保育の質の向上を目指し、子どもたちへのかかわりに反映できるよう 研修を重ね、精進してまいります。
特に、PDCAサイクルの再度見直しや確立に向けて工夫が必要との課題が見えてきました。限られた時間のなかでの全職員による保育の内容・手立て共有の実施に努め、子どもが安心して生活や遊びができるよう配慮したいと思えます。
子どもたちのため、保護者のみなさまのため、そして地域からも愛されるこども園を目指し、理念であるかかわるすべての人にとってHOMEとなるよう努めてまいりたいと思えます。

⑧第三者評価結果 (別紙)

(別紙)

保育

第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	○a・b・c
<コメント> 毎年、職員全体に向けて理念研修を実施し、職員へ周知して、再認識できるようにしている。保護者へは、入園前の説明会で説明している。重要事項説明書にて、周知を図っている。日頃の園生活の中で、一人ひとりの発達に応じた保育・教育が行われているかを園長や主幹保育教諭がラウンドを行って、状況を把握している。職員会議やクラスミーティングにて、共有している。法人の理念に感銘を受けて、入職を決めた職員もいる。		

Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	○a・b・c
<コメント> 法人全体で理事長より「保育園・こども園をとりまく市場」としての話があった。統括園長からは、回覧板にて伝えている。園としては毎年、事業計画書や事業報告書を提出している。		
3	Ⅰ-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	○a・b・c
<コメント> 法人全体で経営についての話がある。開園5年目を迎え、0歳児の入園児数によって経営状態が変わってくるので、0歳児が少ない場合は、1歳児を増やすなどして、維持できるように努めている。来季は地域のニーズに応えられるように、0歳児の人数を増やそうと計画している。		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>総会にて、理事長からの説明がある。長期経営方針を掲げており、5つの主要活動を中心にしている。5つの主要活動とは、魅力ある法人づくり、人材育成強化、財務管理の拡大、安心・安全の確立、最適な経営体制構築となっている。2035年までの収支計画もあり、明確な目標を掲げている。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>毎年、事業計画書を作成しており、実行できるよう取り組んでいる。今年度の単年度計画は、主に公開保育に力を入れており、職員一人ひとりのスキルアップに向けて取り組んだ。また、誰がみてもわかりやすいような資料を作成している。</p>		

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>年間行事予定表を作成して、大きな行事は主幹保育教諭が中心となり、職員会議にて計画を進めている。担当を割り振って事前準備から始めている。実行した後は、来年度に向けての反省を行い、改善できるように事業計画を立てている。運動会の時には、逆光で見にくかった、職員の配置や駐車場係り、日程の調整についての意見が挙がり、次に向けて見直しを行っている。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>保育園向け登降園管理システムや写真投稿SNSを活用して、日頃の様子を配信したり、園内で写真を入れたドキュメンテーションを作成している。年齢ごとにホワイトボードで1日の様子を知らせている。必ず見ていただきたい掲示の場合には、場所を考えたり、わかりやすいように目立つ工夫がなされていた。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>園内研修(プチ公開保育)を計画し、法人内の先生方にも呼び掛けている。振り返りの場を設けており、グッドポイントやチャレンジポイントを頂き、反省を基に、次回に繋げている。年2回、公開保育に参加している。法人のズーム研修では、「考えさせるを考える」を基に、継続的な質の向上に繋げている。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>園として取り組むべき課題については、職員間で共有している。地域協働学校推進委員会にて公表しており、その場で意見を頂き、園内に掲示している。職員間で保育の様子を動画撮影した後、保育者の振り返りの時間として利用している。職員同士で学ぶ機会を設けており、次への保育に活かしている。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>理事長の思いやちとせ交友会の思いを引き継げるように、園長の経典にて、見直している。業務分担表、重要事項説明書、ちとせ交友会組織図にも記載している。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>不適切保育については、園長セッションの研修を受けた者が、職員に対しての研修を行ったり、声を掛け合ったりしている。掛け合えるような人間関係を築けるように、雰囲気づくりに努めている。コンプライアンス会議や研修に参加している。</p>		

Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>ちとせ交友会全体で、保育の質向上推進部が発足している。岡山チームのメンバーとして、園内・園外へと指導を行っている。職員からも、たくさん学ぶ機会があり、勉強にもなっている。持続的な保育の動機づけになるように関わっている。職員会議の際に、研修内容は口頭でフィードバックしている。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>離職がないように、今いる職員を大切に、普段から言葉を掛けるように心掛けている。職員にとって居心地が良い職場になるように、目配りや気配りもしている。公開保育に向けて、1ヶ月毎にテーマを決めて、行ったことを園だよりに記載し、実践した内容とリンクできるようにした。その結果、園だよりの内容も良くなり、職員の自信にも繋がった。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>ちとせ交友会全体で学校を設立しており、人材確保・育成が行われている。園長会主催の就職フェスでの呼びかけから、就職に繋がった職員もいる。支援の必要な子どもに対しては、人員を確保し、クラスの状態に応じて手厚く職員を配置しており、今後も継続していきたいと考えている。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>園内の保育で基礎を学んでいき、中堅になると後輩指導やミドルリーダー研修、公開保育や集中講義、ブロック研究委員といった、学ぶ機会が多くあり、その熱意や実行力を評価している。年数回の面談にて、人事や配置を決めている。職員一人ひとりが、よいビジョンを思い描き、働きやすく、古都子ども園で働き続けたいと思える職場環境になるように努めている。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>園長は、仕事や家族・友達との時間を大切にほしいとの思いがあり、リフレッシュ・有給休暇を充実している。バランスよく仕事ができるように言葉を掛けている。急に休みが生じた際には、主幹教諭が配置換えをするようにしている。当番の変更やヘルプボードを活用して見えるように工夫している。</p>		

Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>自己分析シートを活用し、年度当初に自己PRにて目標設定をしている。その後は、自己評価を基に、「この遊びを、いつ、このようにやりたい」と具体的に話す時間を設けている。面接では、課題について話し合い、一人ひとりに振り返れるようにしたいと今後考えている。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>年間研修計画を立てており、必要に応じて研修に参加している。直近では、大阪で全国主任会に参加して学びを深めた。期待する職員像は明確にはしていないが、個人目標を立て、目標が達成できるように日々取り組んでいる。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>キャリアアップが図れるように環境を整え、職員一人ひとりの経験年数や強み、弱みを理解しながら、個々に合った研修に参加し、希望があれば、日程調整をして参加している。園長や主幹教諭より障害児研修や接遇研修と個々に合った研修に参加している。月1回、構成論の研修や公開保育の際に、参加できるように環境を整えている。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>毎年、実習生を受け入れており、今年度は2名の実習生を受け入れた。実習に合った内容を計画し、実習生の育成にふさわしい職員を配置して、指導にあたっている。実習についての説明会に参加した際には、各担任へ周知している。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>開園前から古都幼稚園や地域との関わりを大切にしている。開園当初から園だよりを地域だよりとして配布している。以前は、連合町内会長が回覧板で配布していたが、現在は、地域のホームページに毎月載せて頂いている。地域の方には、古都こども園のことを知って頂きたいと考えている。今回、第三者評価を受審をした。</p>		

22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>事務担当職員が中心となって確認しており、本部の経理担当職員とも連携が図れており、公平に行われている。年に一度、岡山市による監査指導も受けている。また、公認会計士による、内部監査も実施している。</p>		

Ⅱ-4 地域との交流と連携・地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>古都幼稚園の頃から行われている、小学校や地域との連携を続けている。地域での川掃除や夏祭り、かるたとり大会のチラシの掲示や配布をし、職員も積極的に参加し、保護者も参加されるのを楽しみにしている。また、一時預かりの案内も地域だよりに載せている。園の様子を地域の夏祭り際に、動画で流して、知って頂ける機会をつくっている。</p>		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>要請があれば、積極的に受けるようにしている。岡山市で事前の説明会があれば参加している。ボランティアに来られる方は、事前に打ち合わせを行っている。城東高校の地域貢献活動が授業の一環としてあり、掃除のボランティアに来て頂けた。その他では、近隣住民の方で、手品を披露してくれる方もいる。</p>		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者から問い合わせがあった場合には、関係機関が作成している資料を準備している。要保護児童については、関係機関と定期的に連絡を取りあっている。虐待が疑われた場合には、速やかに子ども家庭センターと連携を図り、事情を伝えている。必要があれば、児童相談所にも繋げている。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>地域連絡会、地域協働学校連絡協議会、一時預かり事業と連携を図っている。地域だよりに、一時預かりや電話受付についての問い合わせを記載している。来年度は兄弟の関係があり、0歳児の入園が多い見込みとなっている。</p>		

27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。	a · b · c
<p><コメント></p> <p>延長保育事業、一時預かり事業、夏祭りで園の紹介ビデオ、小学校との合同避難訓練、支援物資の供給、発電機支援、発電機講習会(年1回)を行っている。近隣の小学校との交流(5年生と5歳児)がある。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a · b · c
<p><コメント></p> <p>人権週間の時には、玄関にポスターを掲示している。年度初めの研修、法人内の研修や職員会議にて、人権への配慮・尊重できるように確認している。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a · b · c
<p><コメント></p> <p>重要事項説明書に記載されており、職員や保護者に周知できている。一人ひとりのこどもの状況に応じて、プライベートの空間をつくり、安心して生活できるように援助している。着替えの場所や写真を撮る際には、十分配慮している。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a · b · c
<p><コメント></p> <p>各クラスの前に重要事項説明書を置いており、いつでも誰でも見れるようにしている。入園や一時預かり希望者の見学を受け入れている。園内見学の際には、重要事項を抜粋したものを渡している。玄関には、ちとせの7つの保育についてを掲示している。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a · b · c
<p><コメント></p> <p>変更届の資料は、口頭だけでは難しいところもあり、付箋を貼ったり、説明しながら一緒に記入したりしている。配慮が必要な保護者へは、誰がどのように説明するか、園長、主幹保育教諭、担任、事務員とも情報を共有するようにしている。</p>		

32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>相談がある場合は、電話相談や兄弟を通じて状況を聞くこともある。在園証明書、幼保連携型認定こども園園児指導要録にて、記載されている。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「今日も楽しかった！明日も行きたい！古都こども園」が園長の目標である。保育カリキュラムの設定と心の安定ができるようにしている。年1回、保護者役員会があり、主幹保育教諭も同席し、保護者から、意見や感想を頂いている。運動会や発表会後にはアンケートを行い、その結果から改善策を考えている。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>重要事項説明書に「保育・教育内容に関するご相談・ご意見・ご要望・苦情」の記載がしてあり、園内に仕組みを掲示しており、意見箱も設置している。アンケートには、自由記述の欄を設けている。苦情は、苦情受付書ファイルに記録しており、保護者へは丁寧に説明している。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>重要事項説明書には、苦情窓口や第三者委員会の明記をしている。相談相手も選べるようにしている。保護者が気軽に事務所に声をかけたり、職員から声をかけたりする場合もあり、相談しやすい雰囲気をつくっている。相談内容によっては、事務所奥の応接室で話をするようにしている。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者からの相談を受けた際には、傾聴することを心掛け、速やかに解決するように努めている。苦情解決のためのマニュアルは作成しており、事務所にフローチャートを掲示している。過去に、保護者に内容を説明していたが、うまく伝わっておらず、園長が話を聞いて納得して頂いた事例がある。</p>		

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>ヒヤリハットは、些細なことでも記入している。法人にて、園長必須の安全対策研修に参加している。ヒヤリハット&ケガマップの分布図を事務所に掲示して、職員が確認できるようにしている。誤飲誤嚥、アレルギー研修やプール前の研修、クラスごとの安全点検や修繕点検を実施し、何か起こる前に行動するように努めている。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>感染症マニュアルを作成し、職員に周知している。年1回、AEDの勉強会を実施している。感染症(嘔吐下痢)が起こった場合には、マニュアルに応じて処理している。感染症にかかって欠席した場合には、ホワイトボードや保護者向け連絡配信アプリにて知らせている。毎月1回、園医からの保健だよりを発行しており、注意喚起を促している。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>立地条件から液状化しやすいため、駐車場への避難完了後には、早めに小学校へ避難する。備蓄リストは、事務所に掲示している。消防署立会いの下、避難ベルの点検をしている。小学校との合同避難訓練を実施しており、発電機の操作訓練も行っている。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>法人の保育カリキュラムや指導案に則って、適切な保育が提供されている。実践する前に、職員同士で確認・共有しながら、こどもに実践している。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>ちとせ交友会にて、年間の年齢別遊びの計画に基づいて実践している。行事については、保護者からの意見・提案が反映できるように努めている。保護者からの意見により、小学校との行事がかぶらないように日程調整もしている。</p>		

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>法人内の公開保育、公開保育後の協議や計画の作成にあたっては、例えば、クッキングの場合には、給食室との連携や保護者へはエプロンの準備をお願いしている。支援が必要な子どもへは、話し合いの場や個人の指導計画を作成して、園児への手立てについて、話し合いもしている。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>指導計画については、現状の発達や子どもの様子に合わせて作成していて、裁量は担任に任せている。何かあればその都度会議を開いて、話し合いの場を設けている。</p>		
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>児童票や個別の指導計画に記録して把握している。作成や書き方への指導にあたっては、主幹保育教諭が指導を行っている。情報共有は、職員会議内で行われたものをまとめ、事務所に掲示して、全職員に共有している。また、支援の必要な子どもに対しても同様で、情報は職員間で速やかに共有している。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>個人情報については、事務所で一括管理していて、職員にも理解して遵守もできている。重要事項説明書にも記載している。個人情報の取扱いについては、入職時にも説明し、同意を得ている。</p>		

評価対象Ⅳ 具体的なサービス内容

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 全体的な計画の作成		
A1	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>法人として計画や目標を作成している。保育理念・方針を明文化し、保育目標を明確に掲げている。家庭・教育・食育の視点を設けており、職員が週案の作成に繋げている。社会的責任を掲げ、全職員目標(年1回)や計画の周知徹底を図っている。</p>		

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		第三者評価結果
A2	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>一人ひとりの子どもたちが家庭と同じように安心・安全な場で過ごせるように配慮している。安全点検を各クラス担任を中心に行い、職務分担として請け負った当番職員が園内外の玩具・遊具の点検を実施している。修繕箇所の把握後、管理職への報連相を怠らないようにし、速やかな改善対策に繋がっている。</p>		
A3	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>慌てず対処できるように現場への目配りをしている。主幹保育教諭との細やかな連絡体制を敷いている。心理的安全性の担保を大切に、穏やかな関係性が園内で広がり、「こどもファースト」という雰囲気の醸成に繋がっている。年2回、不適切保育の研修の実施をし、こどもへの関わりの確認をしている。</p>		
A4	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人が大切にしている「自律」に向けて手立てを考えている。「やってあげる・手伝う・見守る」を全職員と共通理解している。こどもができそうなことは、チャレンジさせながら、個別に丁寧に関わるようにしている。各家庭の状況の変化にも目を配り、保護者に寄り添うことで、安定したこどもの生活支援に繋がっている。</p>		
A5	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>「自分で選んで」活動できるようコーナーを設けている。季節的な遊びを取り上げ、五感を刺激し、心が揺れる場や空間を設けている。園庭は3歳以上児、2階のちびっこ広場は3歳未満児と戸外で十分遊べる時間を確保している。のどかな田園風景を散策し、目や耳で季節の移り変わりを感じている。季節ごとに野菜や花を植えたりしながら、遊びのなかで自然に関わっている。</p>		
A6	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>ベビーサインを取り入れ、優しく語りかけることを大切にしており、発語が促されるよう「一対一」の関係性が築ける時間や場を設けている。排泄や食事は、目を合わせて、情緒の安定が図れるように配慮している。保護者とは連絡ノートを活用し、育ちを細やかに共有できるようにしている。</p>		

A7	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	○ a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>必要以上の介入をせず、「見守る」を原則とし、一人ひとりの遊びを見守るようにしている。こども同士のやり取りができるように、環境の工夫をしている。「子ども分担」をして、情緒の安定に繋がっていく。一日の中で保育教諭に、一対一で絵本を読んでもらう経験ができるよう配慮している。語彙の獲得を促したり、個別の関わりが保障できるようにしている。</p>		
A8	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	○ a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>基本的に「自分で選ぶ・考える」ことができるように場を整えている。5才児保育では、主体的な遊びができるように、こども同士の応答的なやりとりを励まし、見守っている。地域の方には、地域だよりを作成して、写真投稿SNSで遊びの様子を配信している。</p>		
A9	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	○ a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>保育教諭の関わり方や姿勢を周りの子は一番近くで見えており、こども同士、手を差し伸べたり、優しく接したりしている。要支援児に対しては、視覚化やアプローチの仕方を随時話せて、受け止める場をつくっている。一人ひとりにあった支援体制をつくれるように、職員同士高め合いながら、よい手立てが増えるように努力している。</p>		
A10	A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	○ a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>静と動をしっかりと取り入れた保育内容となるよう、デイリーや週案の作成に努めている。午睡後は、異年齢合同保育となり、3歳未満児と3歳以上児を分け、穏やかに遊べる雰囲気をつくっている。申し送りについては、当番保育士が責任をもって引き継いでいる。必要があれば、担任が残り、保護者へ直接話ができるよう配慮し、丁寧に連携が図れるようにしている。</p>		
A11	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	○ a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>隣接の小学校とアプローチカリキュラム(幼児期から小学校への接続)を作成し、こども園との接続として、かけはし期を大切にしている。1年生まつりに招待して頂いたり、5年生交流では学校探検に連れていってもらい、就学に期待感が持てるようにしている。交流後は、保護者に様子が分かるように掲示し、親子で一緒に見ながら、入学を心待ちにできる雰囲気をつくっている。</p>		

A-1-(3) 健康管理		第三者評価結果
A12	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>当番保育士による視診や保護者へ体調の聞き取りをしている。降園時には、体調の変化やケガの報告を行っている。0.1才児クラスは、年度当初の聞き取りで、保護者にもうつぶせ寝の危険を周知徹底している。0才児は、ルクミー(午睡センサー)で呼吸観察を行っているが、機械に頼らず、身体に触れ呼吸状態を確認するよう努めている。</p>		
A13	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>年2回の内科健診・年1回の歯科健診を実施している。3歳以上児クラスは尿検査も実施。結果は保護者へ個別に伝達している。歯科健診の結果(歯科健診記録票)を保護者に渡して、治療を促している。健康診断を休んだ際には、保護者に連絡をして、診断を受けるように促している。</p>		
A14	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>年度初めに、アレルギー児の家庭の管理指導表を作成し、保護者への聞き取り、園長、主幹保育教諭、担任、栄養士と共有し、全職員へ伝えている。提供する際には、アレルギー児と誰が見ても一目で分かるように、別色の皿・トレイを使用。座位テーブルは別ものを準備。視覚的に分かるように対応。医療的にケアに準ずる園児に対しては、食べている様子を傍らで観察。咀嚼や嚥下の具合を見ながら、食物摂取ができるよう、個別の対応をしている。</p>		
A-1-(4) 食事		第三者評価結果
A15	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>「自分たちでできる環境」を整えており、「食べる量・順番は自分で決める」を大切にしている。偏食がある子へは、無理強いせず、食べようとする意欲を育てている。夏野菜をみんなで育て、生長・成長を楽しみにし、収穫後には、栄養士と連携を図り、クッキングをしている。生涯に渡って、バランスよく食べる基礎が培えるように、こどもの気持ちを大切に寄り添いながら食育活動をしている。</p>		
A16	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>栄養士と連携し見守っている。給食時には、各クラスを巡回している。各年齢や発達に合わせて、現場が理解できる機会が持てている。5才児クラスは、オープンスペースでの食事タイムとなり、給食室の職員が直接こどもの様子を見れる。こどもたちは、作り手の表情を見ながら家庭的な雰囲気の中で食事をしている。行事食は季節感にあふれ、さまざまな食材に出会い、五感でしっかり味わえるよう工夫されている。</p>		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A17	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>毎日、生活や遊びの様子をおたよりボードにて知らせしている。行事や季節の活動は写真を添えたドキュメンテーションを提示し、生き生きとした表情が伝わるように工夫している。要支援児の家庭には、個別に声をかけ、より細やかに、成長が喜び合えるようにしている。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A18	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>悩みや不安が言いやすいように、傾聴・受容の姿勢を大切にしている。保護者の思いや気持ちを汲み取り、担任間で共有をし、小さいことでも主幹保育教諭へ報告している。主幹保育教諭からも保護者対応をして、園全体で子どもを見守っているという体制づくりをしている。保護者には「一人で悩まない」「誰かに聞いてもらう」ことで 子育て窓口(主幹保育教諭)を設け、子どもに向き合えるよう継続的な支援に努めている。</p>		
A19	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>こどもの表情に変化はないかを、関わりの中で感じ、クラス担任のみならず複数の目で捉えている。何気ない一言を聞きもらさないよう努め、異変を感じれば、すみやかに管理職に伝えるようにしている。必要があれば 地域の子ども家庭センターに情報を共有している。子どもを守る観点より、虐待防止の抑止力として園が機能するように 職員会議でも対応について話し合っている。</p>		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
A20	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>各人の保育スキルを見極めて、主幹保育教諭を中心に、保育理解に繋げている。ピアジェの構成論による保育内容を全職員に周知し、自律した育ちを促しており、クラスミーティングで手立てを振り返る時間を持っている。姉妹園でのプチ公開保育は、継続的に保育のスキルと振り返りができる機会であるため、参加者からのフィードバックで保育の質を確認している。</p>		